

学徒動員「殉難之碑」慰霊祭

令和7年8月7日午前9時半より、学徒動員「殉難之碑」慰霊祭が、学校・生徒代表・同窓会など関係者20名の出席で行われた。

今から80年前の昭和20年8月、大牟田の軍需工場で働いていた八女工業学校の生徒8名が大空襲などの戦禍により若くして、志半ばに尊い命を奪われている。この碑は、50回忌にあたる平成6年8月7日に1年をかけた募金活動によって建立され、毎年慰霊祭が開催されている。今年は、32回目の慰霊祭となった。また、この戦争では、当時教鞭を執られていた先生方にも犠牲者が出ている。



今年は雨天のために、屋外の殉難之碑前での開催を変更し、屋内の特別教室(プロジェクター室)での開催となった。

開式のことばのあとに黙祷をして殉難者のご冥福を祈り、慰霊祭主催者代表の同窓会長 溝田 豊実氏(昭和48土木科卒)が追悼メッセージを読み上げた。

<追悼メッセージ>

昭和16年12月の開戦から昭和20年8月の終戦まで、我が国は戦争一色で、昭和19年8月の学徒動員令により、当時八女工業高校生であった村上さん達は、大牟田の軍需工場に動員配属されたそうです。終戦間際の昭和20年8月7日の大牟田大空襲により、八女工業生8名が殉難に遭遇されています。

太平洋戦争(第二次世界大戦)が終わり、今年で80年になります。戦争体験者の方々も高齢化が進み、これまでこの「殉難之碑慰霊祭」の世話人代表を務めてこられた、昭和21年土木科卒業の村上和義様も96歳のご高齢になられ、この慰霊祭への参加が難しくなられています。村上先輩の思いを胸に同窓会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

平成30年に、この碑を前にして村上先輩が述べられたメッセージを基に村上先輩の思いを話させていただきます。



この慰霊祭を行うにあたり、あらためて「戦争の愚かさと平和の尊さ」を強く思われておられました。

戦争がもたらしたものは、飢餓と国土の荒廃でしたが、現在は国民の努力で国土も復興し、平和

が訪れ「平和の尊さ」を実感しています。ここに眠られる学友は戦争の犠牲者であり、改めて無念の思いが募ります。(殉難に遭われた皆さんは3年生の夏のことだそうです。)

平成6年に建立されたこの「殉難之碑」の前で行われる慰霊祭は、毎年開催され今年で32回



目を迎えましたが、当時を知る方々の参加がなくなった今も、同窓会・学校・生徒会で継続し、殉難者8名の方々の冥福を祈るとともに、殉難者の無念と平和を、未来に語り継ぐ式典となっています。学校では在校生の平和学習でも取り上げられ、平和の尊さを考える機会を作って頂き有難く思っていますと言われていました。

現在、世界ではいろいろな地域で、悲惨な戦争が続いている国々があり、当時国とそれに巻き込まれる周辺地域への対応、又、戦争を視野に入れた外交が行われている地域もあります。このような世界状況の中、尊い青春や将来の夢を奪われた殉難者8名の御霊が安らかなることをご祈念申し上げ、恒久の平和を願い、シンボルである「殉難の碑」を前に平和の尊さを次世代に語り継いでいくことをここにお誓いいたします。

続いて生徒会を代表し、生徒会長の筒井 美羽さんが挨拶をした。

<生徒会代表あいさつ>

私は入学してから毎日、登下校のたび、この「殉難之碑」を何気なく目にしてきました。

夏休みの平和授業や先生方から「殉難之碑」についての話を聞き、初めて「この碑」が建てられた意味を知りました。それ以来、私はこの「殉難之碑」を大切にしていきたいと思います。

私達と同じ年で、学業半ばにして亡くなられた8名の先輩方の思いを知り、平和への願いがより一層強くなりました。



これからは、この思いを深く胸に刻み、たくさんの人へ語り、戦争の悲惨さを伝え継いでいきたいと思っています。最後に亡くなられた方々へのご冥福をお祈り申し上げて私の言葉とさせていただきます。



この後、出席者全員が慰霊碑に献花を行った。

出席者の皆様方の協力により令和7年度の学徒動員「殉難之碑」慰霊祭を終了した。